

【ねがいましては】

令和3年9月25日

KYOWA SCHOOL

第369号

「ノルマと目標」

ノルマ、あまり良い印象を受けることばとして感じない方が多いのではないのでしょうか。調べてみると、もともとはラテン語の *norma* から来たそうです。意味は基準や規範などと言った意味だったようです。そして社会主義国のロシア（旧ソ連）で、労働者たちに達成度を明確にする「割り当て」という意味で使われるようになり今に至っているようです。単純に言えば、「ここまでやれば良いよ。」見方を変えると「それ以上は無理しなくてもいいよ。」になります。

この感覚、学校から出される「宿題」に似ています。出された課題以上のことをやっていく児童・生徒はなかなかいないのではないのでしょうか。でも、宿題と聞いて「ノルマ」とイメージする方も少ないと思います。ノルマの場合、おこなう仕事が一律誰も見極めやすいもの、想像できるものに適用されるようです。例えば、新規のお客さん10人から契約を取ってきなさいとか、毎日500万円売りあげなさいとか、数字で表現しやすいものに使われそうです。片や「宿題」、某中学校では、毎日ノート1ページに自ら考えた宿題を書いて提出しなさい。などというものがあつたようななかつたような。これ冷静に考えてみると、ノルマと同じような感触を持ってしまいます。小学校では『漢道』や『計道』など、〇〇番まで終わらせて提出しなさい。中学校になると、定期テストにあわせて、「各教科の指定問題集の〇〇ページまで終わらせて提出しなさい。」など。

書いてあればいい。やってあればいい。埋まっていればいい。というわけです。もし終わらせずに提出しなければ、ペナルティーや、学期末にたく通知表に大きなダメージを受けることになります。先生方は口々に「もし提出しなければ内申に響きます・・・。」（これって脅迫罪になりませんか？）

実は私たちも含め、かなり小さいときから「ノルマ」と戦っていたようです。

ノルマを達成すれば、その先は・・・？ やりますか？ もちろんやるさ・・・。えー！ そんなはずないでしょ！

宿題を言われたところまで終わらせて、さらに先をやりたくなる子を探すのは、かなり困難を極める気がします。

しかし、会社などでは歩合制をとっていたりすると、そのままノルマ以上の成績は収入に影響しますので頑張っている方も多いのでは・・・。

ところが子どもたちの宿題の世界では、やり過ぎは先生からお小言をいただく原因になりそうなので、きっちり指定された場所までを仕上げる子が多いと思います。

子どもたちよ、ノルマ主義から脱出しましょう。ノルマは上からの命令にすぎません。奴隷制時代、家畜のように扱われた人々が日々の命をつなぐために必死になって働いているようなものです。「ひと」として扱われているようには到底感じません。

ある子は宿題が出ても、「なになに、ふんふん、なるほど・・・。」実にマイペースで進めていきます。途中で気になるところが現れると、すかさず辞書やインターネットなどで検索し調べてみます。するとまたその中から興味のある部分を発見、好奇心は行きつくところを知らずにどんどん先へと膨らんでいきます。気がつくともう良い時間・・・。結局宿題は最後まで終わらすことができませんでした。しかしその子にとっては貴重な発見が多々あり、自前のノートには多くの事柄を書き込むことができました。

つまらなそうにノルマ達成主義で、言われた宿題を早々に片付けゲームにふける子・・・。

好奇心に惹かれるまま時間の経つのも忘れ、気がつくとも宿題を終わらせることができなかつた子・・・。

でも後者の子は学校では宿題忘れの「悪い子」です。

「また忘れたのね。これでは通知表にもあまり良いことは書けませんね・・・。」と言われそうです。でも、後者の子はそんなことお構いなし、宿題から見つかる様々な発見探しに毎日明け暮れます。

さて、どちらが好青年へと変貌を遂げていくのでしょうか。

結果は見えています。『やっぴいなければ叱られる。』『やっぴいなければ成績に影響する。』『やっぴいなければ・・・。』周りのことばかり意識しながらの生活・・・。さてこれをお読みになっている方はどちらですか？

後者のようなお子さんをお持ちになつたご両親様・・・。良かったですね。本当に良かった。お子さんとの間にしっかりと『信頼』を感じます。自由奔放、精いっぱい生ききつている様子が手に取るように見えてきます。その光景を、目を細めながら眺めていらつしやるご両親の姿があります。

「先生やともだちに何を言われようが気にするな。おまえが精いっぱい生きる姿が、私たちにはこの上ないプレゼントなんだよ、ありがとうな。」

学びのよろこびが漂う家庭・・・。成績とか順位とか勝つたとか負けたとか、そんなことはとつてもちつぽけなこと。いま、目の前で黙々とペンを走らせ、「ふんふん、そうなんだ。へーそれで、なるほどね。で、次は・・・。」その子は自前のノートに次々と新しい発見を書き込んでいきます。

その姿に『強制』はありません。どうでしょうか。真の学びって何なのでしょう。学校って何なのでしょう。